神戸市感染症発生動向調査週報

平成28年5月18日 作成

神戸市感染症情報センター

帮生完占数

報告定点数 48 ヶ所

21 左配

第19调 2016年 5月 9日 ~

2016年 5月 16日

インフルエンザ			設置定	E点数		48	ヶ所																							
疾病名称	東灘	灘	中央	兵庫	北	長田	須磨	垂水	西	計	~5ヶ月	~11ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	~14歳	~19歳	~29歳	~39歳	~49歳	~59歳	~69歳	~79歳	80歳~
インフルエンザ	1				2	1	4	12	4	24	1		1		1		1	1		4	1	3	3		1	2	4	1		1

			教育ス			ગા	ケガ																	
小児科			設置足	と点数		31	ヶ所																	
疾病名称	東灘	灘	中央	兵庫	北	長田	須磨	垂水	西	計	~6ヶ月	~12ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	~14歳	~19歳	20歳~
RSウイルス感染症																								
咽頭結膜熱	2			1			1	14	2	20		1	7	2	2	2	4		1					1
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	14		4	1	2	3	11	7	11	53			2	3	8	6	9	6	4	4	6	5		
感染性胃腸炎	9	5	9	9	41	8	61	83	17	242	1	22	32	26	25	23	21	15	13	15	9	18	1	21
水痘	2	4	1	3	2		2	1	2	17		2	2	2	3	3				2		2		1
手足口病							1			1			1											
伝染性紅斑	6			1	4		2	6		19				1	4	1	5		3	2		3		
突発性発疹	2						1	5	4	12		4	5	1		2								
百日咳									4	4				1	1	2								
ヘルパンギーナ					1					1			1											
流行性耳下腺炎	2			1	17		1	5		26			3			8	5	5	2	2	1			

今週、五類感染症のクロイツフェ ルトヤコブ病の届出がありまし た。脳に異常なプリオン蛋白が沈 着し、脳神経機能が障害される病 気はプリオン病と呼ばれ、本疾患 はその代表的なものです。日本で は毎年100万人に1人が発症し、神 戸市で毎年数例の報告がありま す。神経難病のひとつで、抑う つ、不安などの精神症状で始ま り、進行性認知症、運動失調等を 呈し、発症から1年~2年で全身衰 弱・呼吸不全・肺炎などで死亡し ます。感染経路は不明ですが、人 から人への感染の報告はなく、感 染者の角膜や脳硬膜を移植された 人で発症した例や海外では牛海綿 |状脳症(狂牛病・BSE)が食肉を 介して感染した疑いのある例が報 告されています。

報告定点数 10 ヶ所

眼科			設置足	マログラ とうせん とうしゅう とうしゅう とうしゅう とうしゅう とうしゅう とくしゅう とくしゅう しょう しゅう とり		10	ヶ所																						
疾病名称	東灘	灘	中央	兵庫	北	長田	須磨	垂水	西	計	~6ヶ月	~12ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	~14歳	~19歳	~29歳	~39歳	~49歳	~59歳	~69歳	70歳~
急性出血性結膜炎																													
流行性角結膜炎																													

(定点機関から報告されたその他の感染症情報)

東灘区〇ノロウイルス感染症1例:年齢・性別不詳(6101)

- 中央区〇アデノウイルス感染症4例:0~4歳男女(6301)
- 中央区○ロタウイルス感染症1例:5~9歳女(6301)
- 北 区〇病原性大腸菌感染症1例:0~4歳女(6505)
- 北 区〇ロタウイルス感染症1例:0~4歳女(6505)
- 垂水区〇病原性大腸菌感染症1例:年齡・性別不詳(6804)
- |垂水区○細菌性腸炎(カンピロバクター)1例:年齢・性別不詳(6804)
- 西 区Oヒトメタニューもウイルス感染症2例:0~4歳男女(6905)

〔お知らせ〕 バックナンバーは神戸市のホームページからご覧いただけます。 神戸市 発生動向 〔検索〕

または、神戸市ホームページ上段のバナーを以下のとおりたどってください。

(トップページ > くらし・手続き > 健康・医療 > 感染症・予防接種 > 感染症発生動向)

【結核に関する情報】 今週の結核届出患者数は15人(うち潜在性結核感染症3人)です。

【市内の感染症の状況】

注意報および警報水準の感染症はありません。

【感染症発生動向調査事業実施要綱】

http://www.city.kobe.lg.jp/life/health/infection/trend/img/voukou110729.pdf

※病原体サーベイランスとは、流行する感染症の病原体を詳しく調べて、その特徴や流行状況を監視する システムです。解析結果は、「神戸市環境保健研究所における病原体分離・検出状況」をご覧ください。

全数把握対象感染症発生状況	(五類感染症	カルパペネム耐性腸内細菌科細菌感染症)
主载化锤对象版未址无工化ル	(カルバンサム 町 圧勝り 神田 国作権 国 滋え地)

性別	年齢	発病年月日	初診年月日	診断年月日	病型	診断方法(検査法)	症状	推定感染原因	備考
女	0~4歳	2016年4月28日	2016年4月28日	2016年5月5日	/	尿培養法 薬剤耐性の確認	尿路感染症	不明	

全数把握对象感染症発生状況 (五類感染症 急性脳炎)

ı	性別	年齢	発病年月日	初診年月日	診断年月日	病型	診断方法(検査法)	症状	推定感染原因	備考
	男	0~4歳	2016年5月2日	2016年5月2日	2016年5月3日	/	臨床診断	発熱、痙攣 意識障害	その他 (親族中耳炎)	病原体不明
	男	0~4歳	2016年5月7日	2016年5月10日	2016年5月11日	/	臨床診断	発熱 意識障害	その他 (親族発熱、 下痢症状あり)	病原体不明

全数把握対象感染症発生状況 (五類感染症 クロイツフェルト・ヤコブ病)

性別	年齢	発病年月日	初診年月日	診断年月日	病型	診断方法(検査法)	症状	推定感染原因	備考
女	60代	2016年4月頃	2016年5月12日	2016年5月13日	孤発性ブリオン病	臨床症候、 脳波、脳MRI	進行性認知症 視覚異常	不明	

全数把握对象感染症発生状況 (五類感染症 後天性免疫不全症候群)

性別	年齢	発病年月日	初診年月日	診断年月日	病型	診断方法(検査法)	症状	推定感染原因	備考
男	40代	2016年頃	2016年4月20日	2016年4月22日	AIDS	ELISA法 Western Blot法	活動性結核 非ホジキン リンパ腫	同性間性的接触	

全数把握対象感染症発生状況 (五類感染症 侵襲性肺炎球菌感染症)

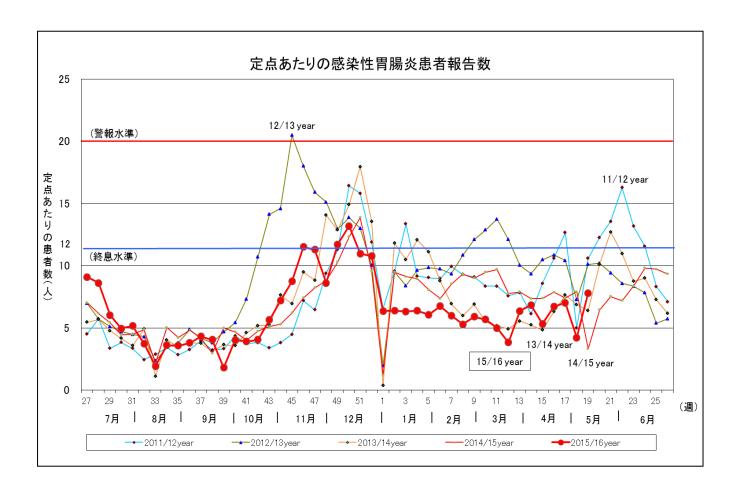
性別	年齢	発病年月日	初診年月日	診断年月日	病型	診断方法(検査法)	症状	推定感染原因	備考
男	0~4歳		2016年4月27日		/	血液培養法	発熱、菌血症	潜在性	ワクチン接種歴 あり
男	40代	2016年4月28日	2016年4月28日	2016年4月30日	/	血液・髄液培養法	発熱、菌血症	不明	ワクチン接種歴 無し
男	0~4歳	2016年5月2日	2016年5月6日	2016年5月10日	/	血液培養法	発熱、咳、肺炎 全身倦怠感、 中耳炎、菌血症	飛沫·飛沫核感 染 接触感染	ワクチン接種歴 あり
女	60代	2016年5月9日	2016年5月9日	2016年5月10日	/	血液培養法	発熱、咳、 全身倦怠感 肺炎、菌血症	飛沫・飛沫核感 染	ワクチン接種歴 無し
男	60代	2016年5月5日	2016年5月11日	2016年5月13日	/	血液培養法	肺炎・菌血症	不明	ワクチン接種歴 不明

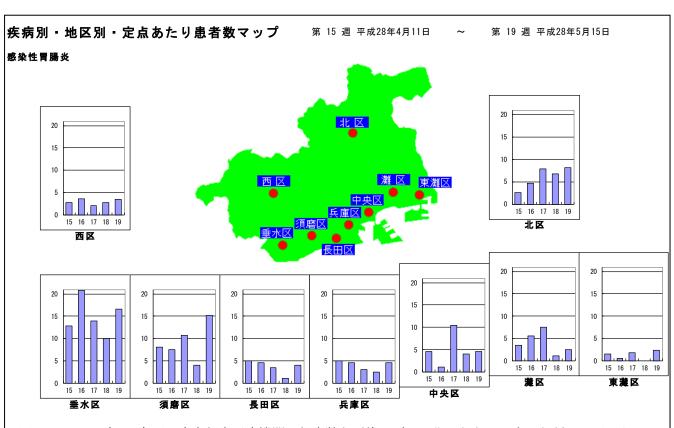
全数把握对象感染症発生状況 (五類感染症 梅毒)

性別	年齢	発病年月日	初診年月日	診断年月日	病型	診断方法(検査法)	症状	推定感染原因	備考
男	70代	/	2016年4月25日	2016年4月25日	無症候性キャリア	RPRカードテスト 自動化法, TPHA法	/	不明	

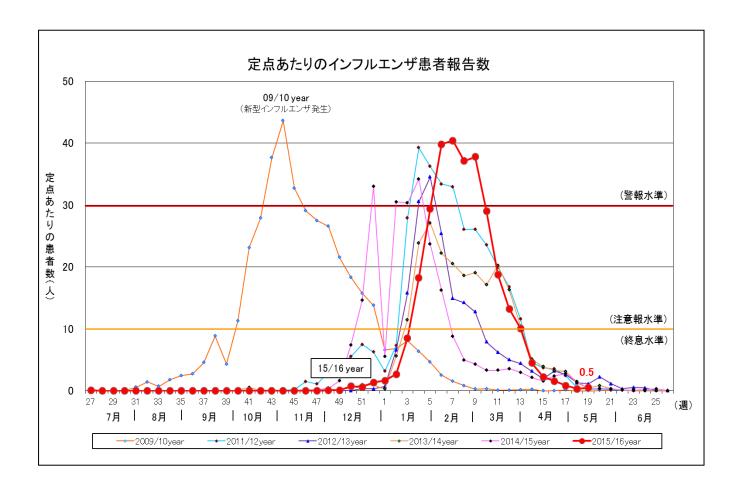
神戸市環境保健研究所における病原体分離・検出状況

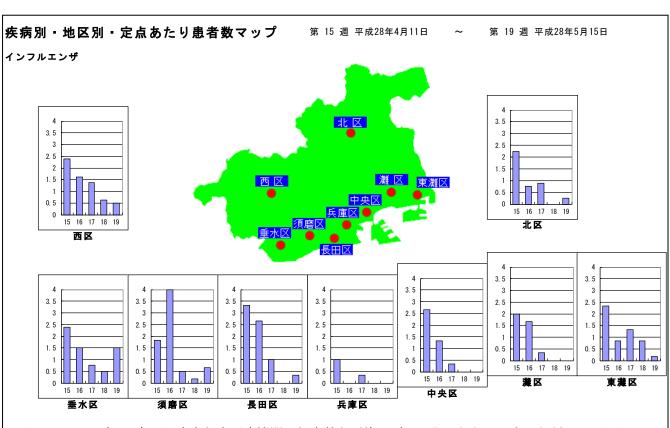
病原体	検体	区	状況
バラインフルエンザウイルス3 型	鼻腔拭い液	須磨	1歳1ヶ月男児(4/11採取、38.5℃、RSウイルス感染症疑い)
アデノウイルス2型	咽頭拭い液	東灘	4歳8ヶ月男児(4/14採取、39.0°C、咽頭結膜熱)
B型インフルエンザウイルス (ビクトリア系統)	鼻腔拭い液	兵庫	5歳女児(4/25採取、40.1℃、インフルエンザワクチン未接種)
ムンプスウイルス	髄液・唾液	東灘	9歳10ヶ月男児(5/12採取、39.0℃、髄膜炎症状を伴う流行性耳下腺炎)



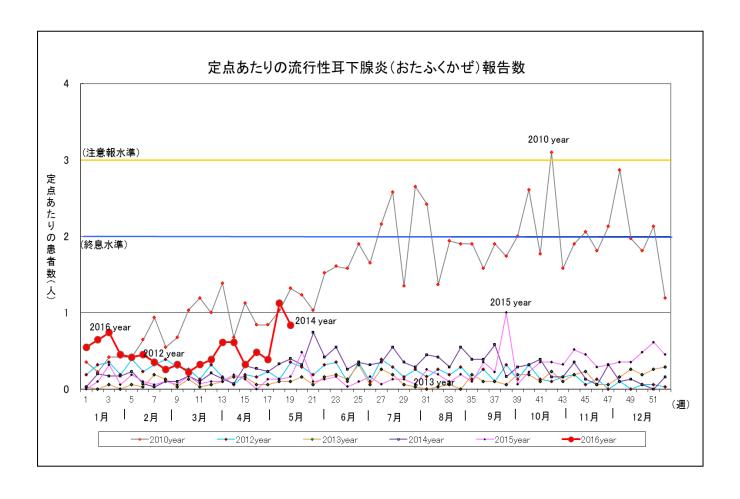


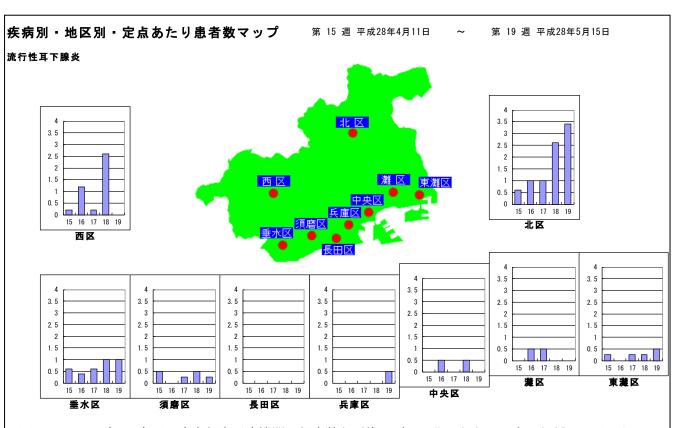
※ このマップは、各区の定点報告医療機関の報告数を平均しグラフ化したものです。ただし、区により報告医療機関数は異なるので区内の継時的な傾向を把握することはできますが、区間の違いを正確に把握できるものではありません。





※ このマップは、各区の定点報告医療機関の報告数を平均しグラフ化したものです。ただし、区により 報告医療機関数は異なるので区内の継時的な傾向を把握することはできますが、区間の違いを正確に把握 できるものではありません。





※ このマップは、各区の定点報告医療機関の報告数を平均しグラフ化したものです。ただし、区により 報告医療機関数は異なるので区内の継時的な傾向を把握することはできますが、区間の違いを正確に把握 できるものではありません。